

新しい時代に 強くしなやかに進化する 新しい中部電力グループを創る

中部電力では、電力業界を取り巻く経営環境が激変する中、5年ぶりにトップが交代した。新たに就任した勝野哲社長は、これからどのような舵取りを行うのか――。

解決すべき課題、今後の経営戦略についてフリーアナウンサーの長谷川玲子さんが聞いた。

長谷川 社長就任の内示を受けたときは、どのようなお気持ちでしたか。

勝野 東日本大震災以降、全国の原子力発電所が再稼働できない状況が継続するとともに、電力の小売全面自由化や送配電事業の法的分離が実施されることになり、さらにはガスシステム改革が進められるなど、当社を取り巻く環境は厳しく、また大きく変化しています。当社が歴史的転換点に立っている今、社長という大任を仰せつかり、責任の重さを感じると同時に、身の引き締まる思いです。

長谷川 電気事業を取り巻く厳しい状況の中、経営の舵取りは難しい面があるのではないのでしょうか。



中部電力 代表取締役社長

勝野 哲

(かつの・さとる) 愛知県名古屋出身。慶應義塾大学卒業後、1977年中部電力入社。2000年工務部発電グループ部長、'03年経営戦略本部設備・投資計画グループ部長などを経て、'05年執行役員岡崎支店長、'07年常務執行役員東京支社長、'10年取締役専務執行役員・経営戦略本部長、'13年代表取締役副社長執行役員経営戦略本部長を歴任。'15年6月より現職。

勝野 これまで、水野前社長（現会長）のもと「変えるべきを変え、守るべきを守る」を実践しながら、東京電力との包括的提携やフリーポータル LNG プロジェクト、新電力の買収など、成長戦略の実現に向けたさまざまな布石を打ってきました。その布石を具体的な成果につなげられるよう、実行に移していきます。

中部電力グループの目指す姿「エネルギーに関するあらゆるニーズにお応えし、成長し続ける企業グループ」を実現するために、これからも、私は現場経験を活かし、先頭に立つて従業員を引っ張り、経営課題に一丸となって立ち向かっていきます。

長谷川 経営課題についてどのような考えですか。

勝野 変わらない公益的使命である

安定供給は今後も継続して取り組んでいきます。

その使命を果たすため、浜岡原子力発電所（以下、浜岡）の安全性向上対策を着実に行うことが重要な課題だと位置付けています。また、重点的に取り組む課題として、電力システム改革に対して迅速かつ的確に対応していくこと、成長戦略を着実に実現すること、電力自由化に打ち勝つための戦略を立てることがあげられます。

長谷川 勝野社長が重点的に取り組む課題と位置づけられた浜岡に関してどうお考えですか。

現場経験を活かし 先頭に立って従業員を引っ張り 経営課題に立ち向かっていく

勝野 原子力発電は、国のエネルギー基本計画において、重要なベースロード電源としての位置づけが明確にされています。安全性を大前提に安定供給や経済性、環境保全を同時

に達成するためにも、必要不可欠な電源です。

また、モノづくり産業の集積地である中部地域のお客さま、特に産業界のお客さまからは、中長期的な生



産計画を立案する上で、安価な電気料金水準を安定的に維持することが期待されています。このご要望にお応えするためにも、原油価格などの影響を受けにくい原子力発電の活用は不可欠だと考えます。

浜岡の安全性向上のための設備対策に真摯に取り組むとともに、防災体制の整備や訓練の充実、自治体との連携を強化するなど、ソフト面での対策も充実させているところであります。さらに、国の規制要求を満たすことにとどまらず、原子力の安全性

を自主的・継続的に向上させていくため、「ガバナンスの強化」、「リスクコミュニケーションの強化」を柱とする取り組みを進めていきます。

こうした私たちの取り組みについて、地域をはじめ広く皆さまに丁寧にご説明し、双方向のコミュニケーションを通じて一人でも多くの方にご理解いただけるよう中部電力グループ一丸となって取り組んでいきます。

**変化をチャンスと捉え
新しい発想と強い意志を持って
行動する**

長谷川 次に電力システム改革について、どう対応されるのでしょうか。

勝野 2016年4月に、一般家庭を含めた電力の小売全面自由化が開

フリーアナウンサー／
舎鐘代表取締役
長谷川 玲子

（はせがわ・れいこ）静岡県出身。静岡県立大学国際関係学部卒業。SBS静岡放送に入社し、アナウンサー、報道記者として9年間勤務。独立後、フリーアナウンサー協同組合舎鐘設立（2015年4月株式会社）に改組。'12年早稲田大学大学院公共経営研究科を修了。テレビ、ラジオに出演するほかにも講演会、シンポジウムなどで幅広く活躍中。

始されることに対し、すでに700社程度の事業者が参入しており、引き続き当社をお選びいただけられるように、これまでの布石を具現化して競争力のある価格を目指すとともに、安定供給だけでなく、お客さまのニーズに応えられるような付加価値の高い多種多様なサービスや料金メニューの提供に努めています。例えば、ご家庭向けのWEB会員サ

新しい発想と強い意志で 一歩先行く

総合エネルギーサービスを実現する

ービス「カテエネ」や、「eー暮らし株式会社」が提供する暮らしと住まいのサポートなど幅広いサービスをご用意しています。電気に加え、17年を目途にガスの小売全面自由化も実施されます。

こうした変化を「チャンス」と捉え、電気・ガス、中部地域内外、国内外といったあらゆる垣根を越えて、さまざまなサービスを提供して



いきます。「エネルギーの枠を越えて、お客さま一人ひとりにご満足を提供する暮らしのコーディネートター」となることができるよう、電気を中心としたエネルギーサービスを届けただけではなく、お客さまの懐に飛び込み、お客さまのニーズをしっかりと捉え、お客さまの想像を超えるサービスをご提案していきます。

私たち一人ひとりの新しい発想と強い意志で、一歩先行く総合エネルギーサービスを実現する新しい中部電力グループを創っていきます。

現場にこそ答えがある 躍動感のある企業を創る

長谷川 トップとして中部電力を、どのような会社になりたいとお考えですか。

勝野 今年は、当社にとって「攻めの一年」であると考えています。16年4月の電力の小売全面自由化に向けてしっかりと準備をし、グループ一丸となって「攻め」の姿勢で取り組んでいきます。

そのために、経営者自らがしっかりと将来像を示しますので、従業員一人ひとりが自分の役割を十分理解

し、共に考え、果敢に自ら行動して
いってほしい。そして、当社のDN
Aともいえる「電気を止めない」、「止
まったら一刻も早く復旧する」とい
う安定供給にかける強い想いを持っ
た人の集まりであり続けたいです
ね。従業員一人ひとりの想いと力を
結集させ、躍動感ある企業を創りた
いと思っています。

長谷川 躍動感ある会社にするた
め、大切にしておられることは何で
すか。

勝野 私が大切にしているのは「現
場にこそ、答えがある」ということ
です。激しい競争に勝ち抜いていく
ための原動力は従業員です。特に、
第一線の現場で働く一人ひとりが事
業を支えており、「サービスは人
である」と考えています。

だからこそ、従業員には現場を大
切にし、お客さま・仲間・設備を知
ってほしい。そこで得られた知識か
ら、新たな発想を生み出し、その発
想に基づいて、決めた目標を強い意
志で実行してもらいたいと思ってい
ます。

長谷川 最後に読者の皆さまにメッ
セージをお願いします。

勝野 まずもって、厳しい経営環境

の下でも、今まで乗り越えてこられ
たのは、多くの皆さまのおかげであ
り、改めて御礼申しあげます。

電気をはじめとしたエネルギーは
生活や社会を支える基盤です。総合
エネルギーサービス企業として発展
し、そこで得た成果をお客さまと広
く分かち合い、共に発展していき
たいと考えています。言い換えれば「電
気を安全、安定、安価にお届けする

電気を安全、安定、安価に
お届けすることにより、
お客さまや地域社会と共に栄えていく

ことにより、お客さまや地域社会と
共に栄えていく」ここにこだわり、
ひたむきに取り組んでいきます。経
営トップとして、変化の時代に、強
くしなやかに進化する中部電力グル
ープを創り、お客さまからお選びい
ただけるよう、全力で経営の舵取り
にあたる覚悟です。

文・構成／松本稔 撮影／加藤有紀

